

第12期事業報告書

2004年8月1日から2005年7月31日まで

Contents

プロフィール	1
「新たな光産業を創出し、 光の世界企業を目指す」を企業ビジョンに CCSはLEDを通じて社会に貢献します。	
トップインタビュー	2～4
当期の成果と今後の戦略について、社長がお答えします。	
R&D	
工業用LED照明事業	5～6
顕微鏡用照明分野	7
農業用照明分野	8
医療用照明分野	8
トピックス	9
財務ハイライト	10
連結財務諸表	11～12
個別財務諸表	13
会社の概要	14

「新たな光産業を創出し、光の世界企業を目指す」を企業ビジョンに CCSはLEDを通じて社会に貢献します。

CCSは工業分野の画像処理用LED照明のリーディングカンパニー。
国内約60%、世界約20%のシェアを有するトップメーカーです。
近年はFA用途で培った独自の制御技術、集光技術、放熱技術を駆使し
多様な分野へ独自の技術で高付加価値の照明を提供しています。
光を活かす新たなマーケットを創造し、社会に貢献すること——
それがCCSの使命です。

社是

「お客様に愛と感謝」 「光を科学し、社会に貢献する」

企業理念

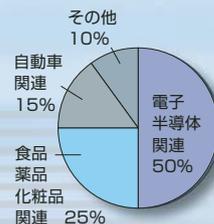
CCSは1993年、世界的なベンチャー企業が数多く育つ京都の地に誕生しました。その当初から掲げてきたのが「愛と感謝」の精神です。お客様に喜んでいただける技術と製品をひたむきに追求し、それを具現化することで社会のお役に立ちたい——。その思いこそが、CCSをLED照明のトップメーカーに押し上げる原動力となったのです。

ライティング・ソリューションを
さまざまな産業分野へ



工業用LED照明事業

CCSの売上高の95%以上を占める主力事業です。電子・半導体業界、自動車業界、食品業界など、幅広いユーザー層から高い支持を集めています。



農業用照明分野

LEDの特性とCCSの技術を融合し、研究用の植物育成用照明パネルや装置を商品化。独自の植物実験プラントも建設・稼働させています。



医療用照明分野

歯科用レジン硬化照射器を開発し、医療器材メーカーへ納入しています。そのほかLEDを使った治療器の研究・開発を行っています。



顕微鏡用照明分野

顕微鏡に最適なLED照明を開発し、世界の主要顕微鏡メーカーで採用されることになりました。



当期の成果と今後の戦略について、社長がお答えします。



代表取締役社長 米田 賢治

2004年6月に株式上場を果たしたCCS。

上場後初の事業年度となる2004年8月1日から2005年7月31日までの第12期の業績とその要因ならびに第13期以降の見通しと経営戦略について社長自らが株主の皆様にご説明いたします。

❓ 当期の業績はどうでしたか。またその要因は？

❗ シリコンサイクルの影響を受けましたが、新たな成長への布石を打ちました。

当期の連結売上高は3,719百万円(前期比13.1%増)、連結経常利益は413百万円(前期比34.3%減)、連結当期純利益は230百万円(前期比40.5%減)となりました。

売上高については、当社の前期売上構成比の約60%以上を占めた

電子半導体業界が、当期第2四半期以降、設備投資の手控えや在庫調整に入ったことに加え、新規事業である顕微鏡分野の立ち上がりの遅れが影響し、前期決算後に発表しました業績予想の4,306百万円を達成することができませんでした。

利益については、販売費および一般管理費の増加により、減益という結果になりました。具体的には、ハロゲン置き換え市場、自動車関連分野、食品・医薬品分野攻略に向けた新製品開発のための研究開発投資が323百万円(前期比94.8%増)と大幅に増加したこと、また将来を見据えた組織体制強化のための人材の補充や海外子会社の立ち上げに伴う費用等が増えたものです。

当期第3四半期以降、徐々に業績は回復しつつあり、かつ研究開発の成果として20機種近くの製品を開発したことで、来期以降の新たな成長に向けた布石を打つことができました。2006年7月期は事業拡大とともに業績伸長を期してまいります。

❓ 当期開発された新製品は期待できますか？

❗ いずれも展示会での反響は上々、期待の新製品です。

2～3年ほど前から基礎研究を進めてきた技術シーズをもとに、自動車や食品・医薬品関連、そして新規分野では各種顕微鏡用照明、植物育成用パネル、歯科用レジン硬化照射器など、幅広い業界の“ウォンツ”(潜在需要)をとらえて開発した新製品が期待できます。

たとえば、後に詳しく紹介しますライセンス用LED照明「HLNDシリーズ」は従来品の5～8倍、50Wハロゲン照明と同等の明るさを実現する超高輝度照明です。2005年6月の展示会「'05画像センシング展」に出展したところ、大きな



ライセンス用LED照明HLNDシリーズ

反響があり「すぐにでも置き換えたい」というお客様が大勢いらっしゃいました。

また同様にインパクトを与えたのが、業界初のフラット・ドーム照明「LFXシリーズ」です。これはフラットな形状でありながら、従来のドーム照明や同軸落射照明に代わる軽量・コンパクトな照明で、無影均一拡散光照射が可能のため、今まで困難だった設置条件でも高精度の検査ができるお客様から賞賛されています。

ほかにも、ハロゲン置き換え照明として期待できる高輝度スポットライト照明や、他社より明るい倍率可変マクロレンズなど、従来にない新製品が誕生しており、来期以降の業績に貢献するものと見込んでいます。



フラットドーム照明LFXシリーズ



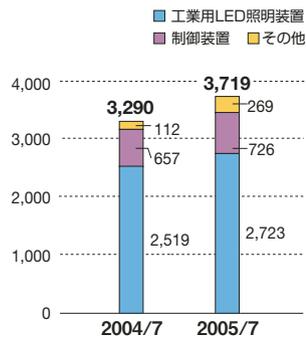
倍率可変マクロレンズSEシリーズ

❓ LEDの将来性とその中でのCCSの位置づけは？

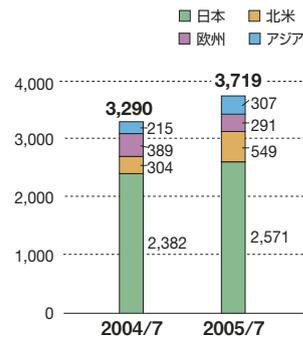
❗ LEDの高輝度化・低価格化に伴って、チャンスは拡大しています。

LEDが今後ますます高輝度化・低価格化の方向に進むことは間違いないものと考えています。また一方では、各企業において環境問題への取り組みが積極化しています。FA業界などで多用されている蛍光灯とハロゲン照明は、2006年7月に欧州(EU)で施行されるRoHS指令の対象となる有害物質の一つ、水銀を含んでいます。将来厳しく規制されるようになれば、使用不可となる可能性があります。また、2005年2月に京都議定書が発効され、CO₂排出抑制の観点からも、消費電力の大きいハロゲン照明は敬遠されつつあります。そこでこれらに替わるものとしてLEDが脚光を浴びており、日本をはじめ世界中の素子メーカーが熾烈な開発競争を繰り広げています。CCSはLED素子を使って付加価値の高い応用製品(LED照明)を作っている

製品分野別売上高 (単位:百万円)



地域別売上高 (単位:百万円)



メーカーであり、素子メーカーとは共存共栄できる位置づけにあります。LEDの高輝度化・低価格化を大きなチャンスととらえ、引き続き業界のニーズに合った製品を提供してまいります。

❓ 今後のターゲット市場や新規分野の展開は？

❗ 顕微鏡分野が有望、さらに農業、医療、癒しも事業として育ちつつあります。

CCSの企業ビジョンは「新たな光産業を創出し、光の世界企業を目指す」です。工業用照明分野で培った制御技術や集光・放熱技術を新規分野へ横展開し、新たなマーケットをつかっていきたいと考えています。

新規分野で最も早く業績への貢献が期待できるのが、顕微鏡用照明です。すでに世界主要顕微鏡メーカーに採用が決まっており、来期以降は売上が着実に伸び、3~4年後には顕微鏡分野だけで10数億円規模の売上になるものと見込んでいます。

また近い将来には、農業分野が大きなマーケットに育つと考えています。2005年6月より千葉県野田市の当社の植物実験プラントが本格稼働しました。初期コストはLED照明の方が高いものの、蛍光灯に比べて消費電力を大幅に削減できることから、ランニングコストでは、LED

照明の方が安くなります。このことから、LED照明を使った植物工場の初期コストも比較的早期に回収できる見通しです。この実証結果をもとに、LED照明による植物工場を世界中に広めたいと考えています。

さらに医療分野では、2005年2月から歯科用レジン硬化照射器を大手歯科用医療機器メーカーにOEM供給しています。加えて、鍼灸の鍼に代わる治療器やLED照明による“癒し”の効果についても大学との共同研究を進めるなど、技術の裾野が広がりつつあります。

？ 今後の海外戦略は？

！ 当期に確立した四極体制を活かし、地域に合わせた営業展開を進めます。

当期は2004年9月に当社の代理店だったシンガポールのRDV(S) PTE LTD.を子会社化し、同11月にベルギーにCCS Europe N.V.(CCSヨーロッパ社)を開設しました。これにより、1999年9月に設立したCCS America Inc.(CCSアメリカ社)とともに、日本・北米・欧州・アジアの世界四極体制が整いました。

世界各地に拠点を持つ画像処理用LED照明メーカーはCCSだけとあって、各地でサポートできることへの信頼は厚く、各国に工場を持つグローバル企業からCCS製品を新たに採用いただいています。それぞれの地域に合わせて、現地人スタッフが直接提案および技術サポートを行うことで、従来は取引のなかったお客様を次々と新規開拓しています。

？ 来期の業績計画は？ 今後数年間の売上目標は？

！ 新製品を続々と市場投入し、増収増益を見込んでいます。

電子半導体業界が持ち直してきたことに加え、工業用照明ではハロゲン照明置き換えとしてラインセンサ用照明、高輝度スポット照明など当期開発した新製品や、新規分野では特に顕微鏡用照明が業績に大き

く貢献すると見込んでいます。このため、来期の計画といたしましては、連結売上高4,600百万円(対前期比23.7%増)、連結経常利益800百万円(対前期比93.7%増)、連結当期純利益490百万円(対前期比113%増)を目標としております。

今後はさらに顕微鏡、農業、医療などの新規分野の研究開発を活性化し、3~4年後に売上高100億円を目指しており、うち約25億円を工業用照明以外の新規分野で達成したいと考えています。

なお、当期は売上高の8.7%だった研究開発費については来期も、約8.5%の高水準を予定しており、新たな製品の開発を積極的に進めることにより、業績を着実に伸ばしていきたいと考えています。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2005年7月 代表取締役社長 米田賢治

植物実験プラントが稼動。6月にレタスを出荷しました。

CCSが千葉県野田市に開設した建設面積850㎡の植物実験プラントがいよいよ本格稼動を開始しました。最大4,800株/日を生産可能です。2005年6月よりレタス、サンチュ、グリーンリーフを出荷しています。植物実験プラントの野菜は農薬を一切使わずクリーンルーム内で栽培しており、虫や土が付着していないため、洗う必要がなく、菌がないため長期保存がきき、残留農薬の心配がありません。また、味も「大変おいしい」と評判です。

なお、この植物実験プラントは野菜を出荷するのが目的ではありません。LEDと蛍光灯の比較データを採り、味・安全性・安定供給の条件を満たし、さらに低ランニングコストの実現に向けて研究を進め、事業としての採算性を実証することを目的としています。



ハロゲン照明とほぼ同等の明るさを持つLEDライン照明の開発に成功。



ラインセンサ用LED照明 HLNDシリーズ

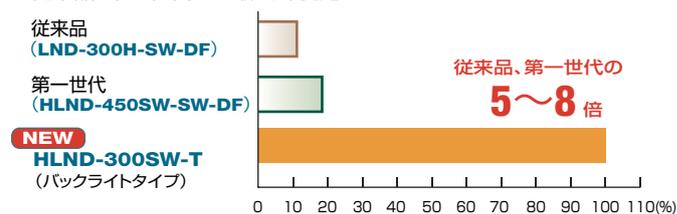
工業用LED照明には面で画像を取り込むエリアセンサ用照明と、線で画像を取り込むラインセンサ用照明の2タイプがあります。ラインセンサ用途では十分な光量が必要とされることから、これまでは輝度の低いLEDでは向きとされてきました。

しかし、技術革新によってLED素子の高輝度化・低価格化が進んだことに加え、CCS独自の照射構造により高輝度均一面発光を実現したことで、ハロゲン照明や蛍光灯に匹敵する照明を完成。照明の長さは100mmから2,700mmまで100mm単位で自在に製作でき、従来は不可能だった領域への置き換えも十分可能となりました。

■50Wハロゲンライン照明との明るさの比較



■従来品、第一世代との最大輝度比



ライン照明はこんな検査で使用されます。

シート状物検査

紙や樹脂フィルム、不織布など、連続して流れてくるシート状物の欠陥検査に適しています。連続したシート印刷や各種加工品の表面検査などで用いられます。

ドラム検査

飲料缶やドラム、鉄鋼など、回転する円筒形状物の欠陥検査に最適です。食品業界や電子機器業界をはじめ、幅広い用途に利用できます。

枚葉検査

自動搬送されてくる板状物を連続自動検査する際に用いられます。印刷物や自動車部品、プリント基板、液晶ガラス基板などの外観検査に適しています。



技術セミナー

環境対策として期待されているLED照明。

2005年2月に京都議定書が発効され、批准各国がCO₂排出量の削減に向けた取り組みを本格化しています。CO₂の排出はエネルギー消費量に左右される面が大きく、このため産業界における徹底した省エネやエネルギー転換などが進められています。

期待されている理由は？

低消費電力・長寿命のLED照明は、省エネ・省資源の観点から各方面の注目を浴びています。しかも2006年7月からは、特定有害6物質(鉛、水銀、カドミウム、6価クロム、ポリ臭化ビフェニール、ポリ臭化ジフェニールエーテル)の使用を原則禁止するRoHS

指令が欧州(EU)で発令されます。蛍光灯とハロゲン照明は水銀を含んでいますので、将来的には、使用不可となる可能性があります。こうした情勢を背景に、照明用途でLED照明がますます期待を集めています。



どのように環境にやさしいの？

LED照明は、消費電力がハロゲン照明の約1/50~1/100。それに比例してCO₂の排出量も抑制されます。例えば100Wのハロゲン照明を1WのLED照明に置き換えることにより、年間約300kgのCO₂排出量削減効果があります。

さらに、パルス発光を行う場合には……

自動車業界向け提案例(組立ラインの位置決め用途)

ハロゲン照明



250W

必要な
光量
＝

LED照明



1W

LED照明の特長であるパルス発光を利用することにより、ハロゲン照明1台当たり、年間600kgのCO₂削減効果を実現し、既に大手自動車メーカーにて導入されています。

ハロゲン照明との二酸化炭素排出量比較

	LED照明	ハロゲン照明
二酸化炭素排出量	<ul style="list-style-type: none"> ● 月間消費電力 1W(照明消費電力)×720h(24時間×30日) =720Wh ● 年間消費電力 720Wh(月間消費電力)×12(月)=8,640Wh ● 二酸化炭素排出量数値:1kWhにつき0.36kgCO₂ 8,640Wh×0.36kgCO₂=3.11kgCO₂ (年間排出量) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 月間消費電力 100W(光源消費電力)×720h(24時間×30日) =72,000Wh ● 年間消費電力 72,000Wh(月間消費電力)×12(月)=864,000Wh ● 二酸化炭素排出量数値:1kWhにつき0.36kgCO₂ 864,000Wh×0.36kgCO₂=311.04kgCO₂ (年間排出量)
1年後の排出量	3.11kgCO ₂	311kgCO ₂
2年後の排出量	6.22kgCO ₂	622kgCO ₂
3年後の排出量	9.33kgCO ₂	933kgCO ₂

ハロゲン照明との寿命比較

LED
ハロゲン

長寿命 **10** 倍以上



世界主要顕微鏡メーカーの各種顕微鏡に搭載開始。

従来、顕微鏡用照明といえば蛍光灯とハロゲン照明が一般的でした。CCSは2004年春頃から顕微鏡用途の開発に着手し、各メーカーに最適なLED照明を提案。2005年3月から世界主要顕微鏡メーカーの製品に順次採用されています。

CCSの顕微鏡用LED照明は、新機軸の集光技術により、蛍光灯の6倍以上の高照度を実現しました。3~4年後には10数億円規模の売上を見込んでいます。

蛍光灯、ハロゲン照明との特性比較

	蛍光灯	ハロゲン照明	LED照明(当社)
平均照度	△(8,000ルクス)	△(種類により異なる)	○50,000ルクス
形状の自由度	×	×	○(小型・軽量、分割点灯可)
平均寿命	○	×	◎30,000~50,000時間
消費電力→CO ₂ 削減	○	×	◎ハロゲンの1/30

測定顕微鏡用
LED照明



CMR-70SW-DV8

8分割照射や101段階の微細な光量調整ができるため、エッジを際立たせたり、画像に立体感を持たせたりするのに最適です。

実体顕微鏡用
LED照明



CSR-53SW

CCS独自の放熱構造と集光技術により、従来の顕微鏡用LED照明の常識を覆す50,000ルクスを達成しました。

実体顕微鏡用
LED照明



CSR-540/600

対物レンズとステージの間隔を広くとることのできる照明構造で、作業領域の大幅な拡張を実現しました。



技術セミナー

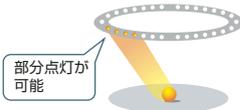
実体顕微鏡とは？ 測定顕微鏡とは？ LED照明の何がいいの？

光の集合体、LED照明の利点が顕微鏡分野で発揮!!

蛍光灯、ハロゲン照明



LED照明



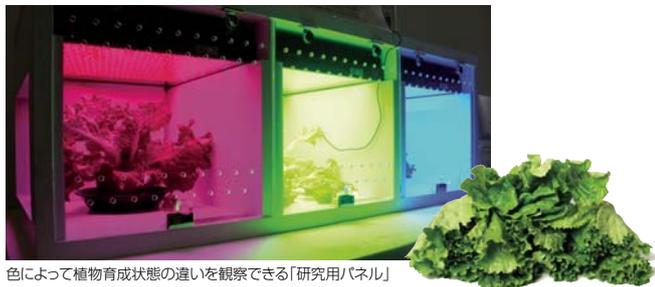
- 実体顕微鏡** 対象物が立体的に見える顕微鏡を実体顕微鏡と言い、電子部品検査、細胞観察など様々な用途に使われます。LED照明の特長である高照度、形状の自由度の高さ、長寿命、低消費電力などにより蛍光灯からLED照明への置き換えが進んでいます。
- 測定顕微鏡** 金属加工部品などの寸法測定に用いる顕微鏡を測定顕微鏡と言います。LED照明は分割点灯を行うことができるため、見たい部分にピンポイントで照射し、精度の高い測定が可能です。

植物実験プラントが稼動。出荷開始。



千葉県野田市に建設した植物実験プラントが稼動し、レタス類の出荷が始まったことで、植物工場の採算性検証がいよいよ本格的にスタートしました。

約100グラムのレタス類を、種から約1カ月間で出荷できるシステムで、現在、蛍光灯とLED照明で採算性の比較データを収集している段階です。蛍光灯で栽培すると一般的に商品価格の30%程度を電力コストが占めますが、LEDを光源とする当社では、LED素子の輝度の進化と当社独自の制御技術、集光技術、放熱技術により、蛍光灯の1/3の電力コストまで引き下げることを目標としています。LED照明は初期コストが高くなるものの、電力コストを下げた利益率を高めることにより、初期コストの回収は蛍光灯とほぼ同じ期間で可能となるものと見込んでいます。これら実験プラントでの実証をもとに、LED照明による植物工場のプラントシステムの販売を手掛けていく計画です。

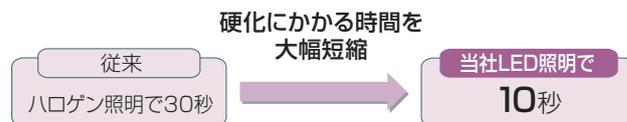


色によって植物育成状態の違いを観察できる「研究用パネル」

歯科用レジン硬化照射器を開発。

CCSはかねてより開発を進めてきた歯科用レジン硬化照射器を2005年2月から販売開始しました。この装置は、従来ハロゲン照明で30秒照射して硬化させていたレジンに、LED照明ではわずか10秒照射するだけで硬化させます。業界最速の硬化スピードが評価され、すでに普及しています。

この装置を導入するのは歯科医院や歯科技工所などであり、世界中の歯科医療現場にレジンを供給している歯科器材メーカーへOEM供給する販売戦略を採っています。現在は国内販売のみですが、近い将来、海外への販売も予定されています。



C o l u m n

LED照明で人に癒しを—— CCSからの新しい提案

CCSは音楽の強弱やリズムに合わせてLEDの光がゆらぐ灯籠を開発し、京都市内で催される各種イベントにご利用いただいています。最近では一般参観記念事業「京都迎賓館パネル展&写真展」(2005年8月22日~9月2日)の開催期間、約100基の灯籠が烏丸通り沿いの企業、学校、神社等に設置されました。



当期の主要なトピックスを紹介します。

2004

8月 高輝度スポット照明「HLV-24-3W」を発売

高輝度のHLVシリーズに従来品より3倍の均一度と2倍の明るさを実現した新製品が加わりました。低発熱で軽量・コンパクト、低消費電力・長寿命が特長。自動車業界向けを中心に、ハロゲン照明に替わる画期的な製品です。



2005

2月 歯科用レジン硬化照射器を発売

業界最速のスピードでレジンを硬化させるLED照射器を歯科器材メーカー向けに販売開始しました。従来はハロゲンで30秒かかった硬化時間を10秒に短縮することが可能です。

3月 顕微鏡用途のLED照明を発売開始

独自の集光技術により蛍光灯の6倍以上の高照度を実現した顕微鏡用LED照明を開発。世界の主要顕微鏡メーカーの各種製品に合わせ、販売を開始しました。



2005

5月 第5回国際バイオEXPO2005に出展

東京ビッグサイトにおいて開催されたアジア最大のバイオテクノロジー展に農業用の植物育成装置およびユニットと顕微鏡用照明を出展しました。また「研究と生産の架け橋となるLED植物育成研究機器」と題してセミナーで発表を行いました。



6月 植物育成実験プラントよりレタスを出荷

千葉県に開設したCCSの植物実験プラントから、レタス類の出荷を開始しました。



(愛・地球博に出展)

2005自動車部品生産システム展に出展

東京ビッグサイトにおいて開催された自動車部品製造を支える機器・システムの展示会において、当社LED照明による各種部品の外観検査、文字読み取り検査、組立ライン用位置決め検査の事例を出品し、触媒検査用光学ユニット装置も出展しました。



品質マネジメントシステム ISO9001 認証取得

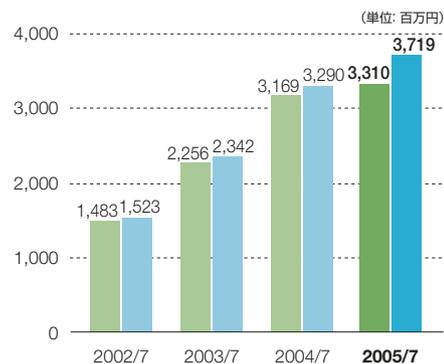
本社、東京営業所、CCSロジスティックセンターにおいて、品質マネジメントシステムの国際規格である「ISO9001:2000」を取得しました。



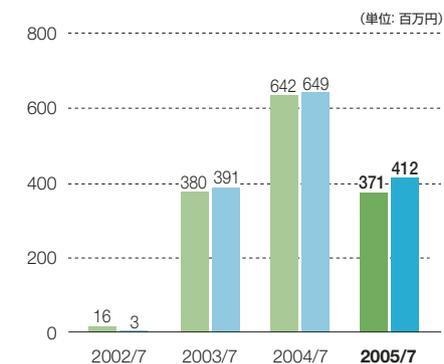
財務ハイライト

単独 ■ 連結 ■

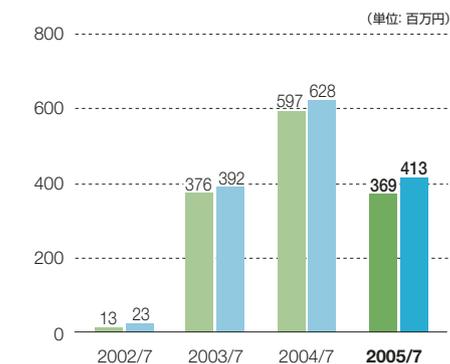
売上高



営業利益



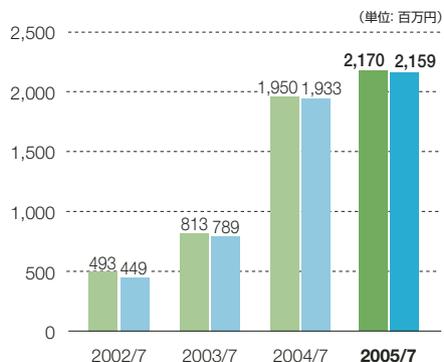
経常利益



当期純利益

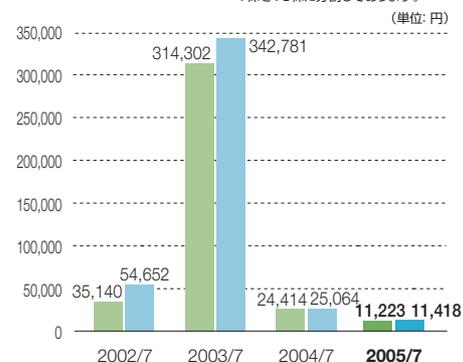


株主資本

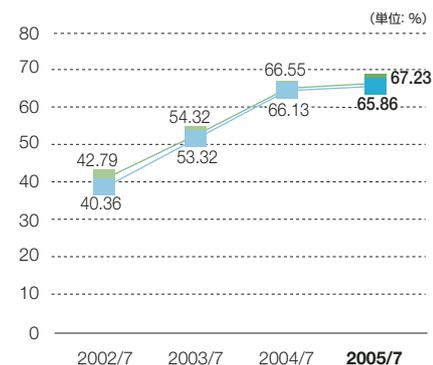


1株当たり当期純利益

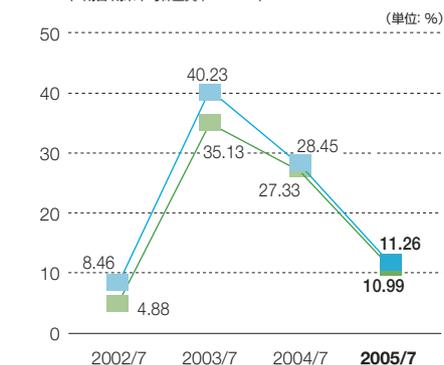
*2004年3月1日付で1株を10株に分割しております。



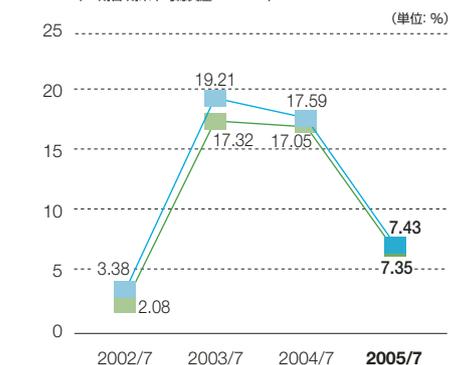
株主資本比率



ROE ($\frac{\text{当期純利益}}{\text{期首・期末平均株主資本}} \times 100$)



ROA ($\frac{\text{当期純利益}}{\text{期首・期末平均総資産}} \times 100$)



連結貸借対照表(要約)

(単位:千円)

科 目	当期 2005年7月31日現在	前期 2004年7月31日現在
(資産の部)		
流 動 資 産	2,381,599	2,270,203
現金及び預金	584,222	586,343
受取手形及び売掛金	1,276,234	1,174,879
たな卸資産	444,198	448,424
繰延税金資産	60,219	53,300
その他	20,246	14,279
貸倒引当金	△3,522	△7,023
固 定 資 産	897,965	653,222
1▶ 有 形 固 定 資 産	734,359	555,818
建物及び構築物	373,469	259,405
工具器具備品	118,794	53,123
土地	239,733	239,733
その他	2,362	3,556
無 形 固 定 資 産	90,461	36,907
2▶ 連結調整勘定	41,444	—
その他	49,016	36,907
投 資 そ の 他 の 資 産	73,144	60,497
繰延税金資産	40,253	34,625
その他	33,265	27,504
貸倒引当金	△374	△1,632
資 産 合 計	3,279,564	2,923,426

(単位:千円)

科 目	当期 2005年7月31日現在	前期 2004年7月31日現在
(負債の部)		
流 動 負 債	619,560	575,130
買掛金	123,784	165,625
一年以内返済予定長期借入金	106,264	65,032
未払法人税等	138,160	186,428
賞与引当金	49,726	42,553
未払金	163,734	98,383
その他	37,890	17,107
固 定 負 債	500,050	414,926
長期借入金	401,733	330,105
退職給付引当金	12,390	9,640
役員退職慰労引当金	84,723	74,751
繰延税金負債	1,203	429
負 債 合 計	1,119,610	990,056
(資本の部)		
資本金	454,650	435,450
資本剰余金	569,950	550,750
利益剰余金	1,140,829	954,956
為替換算調整勘定	△5,475	△7,787
資 本 合 計	2,159,954	1,933,369
負 債 ・ 資 本 合 計	3,279,564	2,923,426



財務セミナー

数字で見るCCS

Point 1 ▶ 有形固定資産

植物育成実験プラント(千葉県)建設のために175百万円を投資したことなどから、前期より178百万円増加しました。

Point 2 ▶ 連結調整勘定

新規の連結対象子会社となったシンガポールのRDV(S)PTE LTD.の株式取得による、のれん代の発生にともない、41百万円増加しました。

Point 3 ▶ 売上高

電子・半導体業界の在庫調整等の影響を、特に第2四半期に受けたことから、当初予定を下回る前期比429百万円の増加にとどまりました。

連結損益計算書(要約)

(単位:千円)

科 目	当 期 2004年 8月 1日から 2005年 7月31日まで	前 期 2003年 8月 1日から 2004年 7月31日まで
3 ▶ 売 上 高	3,719,862	3,290,456
売 上 原 価	1,406,594	1,203,435
売 上 総 利 益	2,313,268	2,087,021
4 ▶ 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	1,900,451	1,437,673
営 業 利 益	412,817	649,347
営 業 外 収 益	9,274	18,293
受取利息	1,149	363
為替差益	2,478	15,018
研究開発費副産物収入	2,006	—
保険積立金解約返戻金	1,879	—
その他	1,761	2,910
営 業 外 費 用	8,978	38,764
支払利息	8,133	8,235
新株発行費償却	605	7,339
公開関連費用	—	22,583
その他	239	605
経 常 利 益	413,113	628,876
特 別 利 益	3,929	—
貸倒引当金戻入額	3,591	—
固定資産売却益	337	—
特 別 損 失	2,417	—
固定資産除却損	2,417	—
税金等調整前当期純利益	414,624	628,876
法人税、住民税及び事業税	196,353	274,564
法 人 税 等 調 整 額	△12,301	△33,118
当 期 純 利 益	230,573	387,429

Point 4 ▶ 販売費及び一般管理費

研究開発への積極的投資や展示会出展などによる販売促進費の増加、組織体制強化に向けた人員増員を推進したことなどから、前期比462百万円の大幅増加となりました。

Point 5 ▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益が414百万円、減価償却費が74百万円、たな卸資産の減少が12百万円あったものの、法人税等の支払額が245百万円、売上債権の増加が81百万円あり、当期に営業活動の結果得られた資金は211百万円となりました。

連結剰余金計算書(要約)

(単位:千円)

科 目	当 期 2004年 8月 1日から 2005年 7月31日まで	前 期 2003年 8月 1日から 2004年 7月31日まで
(資本剰余金の部)		
資 本 剰 余 金 期 首 残 高	550,750	92,770
資 本 剰 余 金 増 加 高	19,200	457,980
増資による新株発行	—	457,980
新株予約権行使による増加高	19,200	—
資 本 剰 余 金 期 末 残 高	569,950	550,750
(利益剰余金の部)		
利 益 剰 余 金 期 首 残 高	954,956	589,915
利 益 剰 余 金 増 加 高	230,573	387,429
当期純利益	230,573	387,429
利 益 剰 余 金 減 少 高	44,700	22,388
配当金	29,700	10,388
役員賞与金	15,000	12,000
利 益 剰 余 金 期 末 残 高	1,140,829	954,956

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:千円)

科 目	当 期 2004年 8月 1日から 2005年 7月31日まで	前 期 2003年 8月 1日から 2004年 7月31日まで
5 ▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー	211,046	39,672
6 ▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△315,245	△505,682
7 ▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー	99,650	862,924
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,632	647
現金及び現金同等物の増加額	84	397,562
現金及び現金同等物の期首残高	552,726	155,163
現金及び現金同等物の期末残高	552,811	552,726

Point 6 ▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー

主に、千葉県に建設した植物育成実験プラントおよび生産設備等にともなう有形固定資産の取得費として239百万円発生したことから、当期に投資活動の結果支出した資金は315百万円となりました。

Point 7 ▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー

新株予約権の行使による収入が38百万円、長期借入による収入が200百万円ありましたが、長期借入金の返済が109百万円あり、当期に財務活動の結果得られた資金は99百万円となりました。

個別財務諸表

貸借対照表(要約)

(単位:千円)

科 目	当 期 2005年7月31日現在	前 期 2004年7月31日現在
(資産の部)		
流 動 資 産	2,165,053	2,224,935
固 定 資 産	1,063,737	705,977
有 形 固 定 資 産	727,823	553,362
無 形 固 定 資 産	38,379	32,840
投 資 そ の 他 の 資 産	297,534	119,775
資 産 合 計	3,228,790	2,930,913

損益計算書(要約)

(単位:千円)

科 目	当 期 2004年8月1日から 2005年7月31日まで	前 期 2003年8月1日から 2004年7月31日まで
売 上 高	3,310,729	3,169,728
売 上 原 価	1,321,063	1,194,670
売 上 総 利 益	1,989,665	1,975,058
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	1,617,688	1,332,922
営 業 利 益	371,977	642,135
営 業 外 収 益	6,130	1,333
営 業 外 費 用	8,784	45,938
特 別 利 益	3,582	34,024
特 別 損 失	2,318	—
税 引 前 当 期 純 利 益	370,586	631,555
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	154,500	272,000
法 人 税 等 調 整 額	△10,538	△18,211
当 期 純 利 益	226,625	377,767
前 期 繰 越 利 益	14,193	17,643
当 期 未 処 分 利 益	240,818	395,410

(単位:千円)

科 目	当 期 2005年7月31日現在	前 期 2004年7月31日現在
(負債の部)		
流 動 負 債	558,988	565,785
固 定 負 債	498,846	414,496
負 債 合 計	1,057,835	980,282
(資本の部)		
資 本 金	454,650	435,450
資 本 剰 余 金	569,950	550,750
利 益 剰 余 金	1,146,355	964,430
資 本 合 計	2,170,955	1,950,630
負 債 ・ 資 本 合 計	3,228,790	2,930,913

利益処分

(単位:千円)

科 目	株主総会承認日 (2005年10月28日)	株主総会承認日 (2004年10月28日)
当 期 未 処 分 利 益	240,818	395,410
任 意 積 立 金 取 崩 高	3,483	3,483
特別償却準備金取崩額	1,874	1,874
固定資産圧縮積立金取崩額	1,609	1,609
合 計	244,302	398,893
これを次のとおり処分いたします		
利 益 処 分 額	230,660	384,700
利益配当金	30,660 (1株につき1,500円)	29,700 (1株につき1,500円)
役員賞与金	—	15,000
任意積立金	200,000	340,000
次 期 繰 越 利 益	13,642	14,193

会社概要

社 名：シーシーエス株式会社
 本 社 所 在 地：〒602-8011
 京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374番地
 TEL:075-415-8280(代表)
 FAX:075-415-8281(代表)

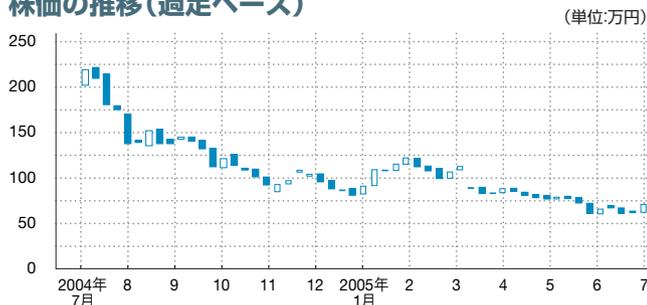
設 立：1993年10月6日
 資 本 金：454,650千円
 従 業 員 数：190名(連結) 167名(単独)
 取 引 銀 行：UFJ銀行・東京三菱銀行・みずほ銀行・京都銀行
 事 業 内 容：●画像処理用LED照明装置及び制御装置の開発、
 製造、販売
 ●植物育成用LED照射装置及び制御装置の開発、
 製造、販売
 ●医療用LED照明応用製品の開発、製造、販売
 ●顕微鏡光源用LED照明装置及び制御装置の開発、
 製造、販売

事 業 所：東京営業所、上海駐在員事務所
 関 係 会 社：CCS America Inc.
 RDV(S)PTE LTD.
 CCS Europe N.V.

役員

代表取締役社長 米田 賢治 監 査 役 入 江 英典
 取 締 役 和 田 浩興 監 査 役 河 内 英昭
 取 締 役 安 封 昂雄
 取 締 役 吉 田 新樹

株価の推移(過足ベース)



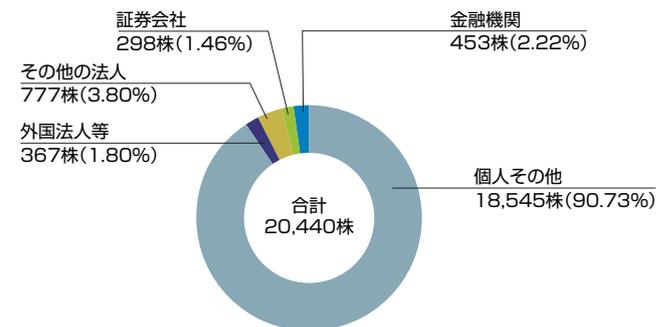
株式の状況

会社が発行する株式の総数：33,600株
 発行済株式の総数：20,440株
 売 買 単 位：1株
 株 主 数：3,834名

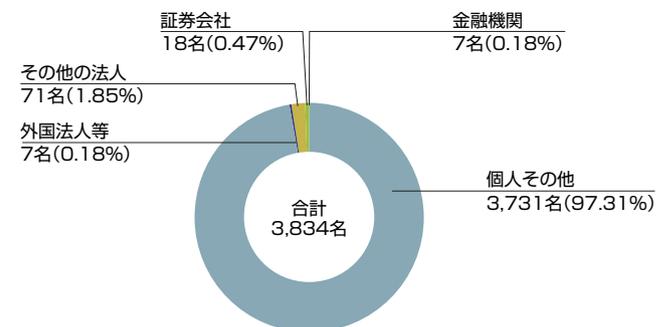
大株主

株主名	持株数	議決権比率
米田賢治	7,750株	37.9%
杉島凱夫	330株	1.6%
日本証券金融株式会社	318株	1.5%
シーシーエス従業員持株会	297株	1.4%
米田美鈴	250株	1.2%
安封昂雄	250株	1.2%
和田浩興	250株	1.2%

持株数別株式分布の状況



所有者別の株主数



株主メモ

決算日 毎年7月31日
定時株主総会 毎年10月
名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
野村證券株式会社 全国本支店
公告の方法 電子公告
公告掲載 URL (<http://www.ccs-inc.co.jp>)
(ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。)
株 主 確 定 日 毎年7月31日
中間配当金の支払いを行うときは毎年1月31日
上場証券取引所 JASDAQ
証 券 コ ー ド 6669

免責条項

本報告書に掲載している将来に関する予想については、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、異なる場合があることをご承知おきください。



シーシーエス株式会社

〒602-8011
京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374番地

お問い合わせ先

E-mail: koho@ccs-inc.co.jp
TEL: 075-415-8291 FAX: 075-415-7723

ホームページのご案内

ホームページにアクセスしていただきますと、当社の各種情報をご覧いただけます。

「投資家情報」のページには、IRニュース、財務ハイライト、株価情報をはじめ、各種開示資料を掲載しています。決算短信や説明会資料は「IR資料ライブラリー」に過去のものから最新のものまでを開示しております。「お問い合わせ」のページもごさいますので、ご意見・ご質問等、皆様のお声をお寄せいただければ幸いです。



トップページ
投資家情報の入り口は
こちらです。

投資家情報トップ画面
株主の皆様と当社の
コミュニケーション窓口
です。



IR資料ライブラリー
四半期データ、説明会資料
などをご覧頂けます。

<http://www.ccs-inc.co.jp>



古紙配合率100%再生紙を使用しています。



植物性大豆インクを使用しています。